

第16章 災害・消防・警察・海上保安

1 災 害	373
16-1 平成18年中の台風・大雨等による被害状況	374
16-2 市町村別台風・大雨等による被害状況	374
16-3 年次別台風・大雨等被害状況	375
2 消 防	376
(1) 火災発生状況	
(2) 消 防 現 勢	
16-4 市町村別の火災発生状況（平成17年1月～12月）	377
16-5 月別火災発生状況（平成17年1月～12月）	377
16-6 原因別火災発生状況（平成17年1月～12月）	377
16-7 大火災発生状況（損害額2,000万円以上）（平成17年1月～12月）	377
16-8 消 防 現 勢	378
3 警 察	379
(1) 交通事故発生状況	
(2) 刑法犯発生状況	
16-9 市町村別交通事故発生状況	380
16-10 市町村別刑法犯発生状況	381
4 海 上 保 安	382
16-11 海難事故の発生状況	382
16-12 海上における人身事故	383
16-13 機動力（巡視船艇）	383
16-14 民間救助組織	383
16-15 船舶交通安全協議会	384
16-16 名瀬海上保安部が管理する航路標識の市町村別設置状況	384
16-17 奄美群島地区スキューバダイビング安全対策協議会	384

1 災 害

平成18年は、大雨や台風13号によって災害が発生した。

人的被害についてはなかったが、被害総額では約1億5千万円となり、前年と比べて約12億6千万円減と大幅に減少した。

年間の被害額を項目別に見ると、公共土木施設の被害が約1億1千万円（被害総額の71.1%）で最も多く、次いで農産被害の約2千万円（同12.6%）などとなっている。

16－ 1 平成18年中の台風・大雨等による被害状況（数値は市町村の報告による）

期 間	台 風 大 雨 等	人的被害（人）		住 家 被 害（棟）						非住家 被 害 （棟）
		死 亡 不 明	負 傷	人 員 （人）	全 壊	半 壊	一 部 破 損	床 上 浸 水	床 下 浸 水	
18. 6. 1～ 2	大 雨	0	0	6	0	0	1	0	3	3
18. 6. 6	大 雨	0	0	2	1	0	1	0	0	0
18. 6. 12	大 雨	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18. 9. 16～17	台風13号	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	8	1	0	2	0	3	3

16－ 2 市町村別台風・大雨等による被害状況（数値は市町村の報告による）

資料：大島支庁総務課
期間：平成18年 1 月～12 月
単位：千円

区 分 市町村名	人的被害 （人）	農 林 水 産 業 施 設	公 共 土 木 施 設	そ の 他 の 公 共 施 設	農 産 被 害	そ の 他	合 計
奄 美 市	0	0	20,000	0	426	0	20,426
大 和 村	0	0	0	0	0	0	0
宇 検 村	0	0	0	0	0	0	0
瀬 戸 内 町	0	0	0	0	0	0	0
龍 郷 町	0	0	0	0	0	0	0
喜 界 町	0	7,000	500	0	0	0	7,500
徳 之 島 町	0	0	61,900	0	0	0	61,900
天 城 町	0	0	5,397	700	3,219	3,000	12,316
伊 仙 町	0	10,000	21,800	0	0	0	31,800
和 泊 町	0	0	0	0	7,120	4,500	11,620
知 名 町	0	0	0	0	0	0	0
与 論 町	0	0	0	0	8,615	0	8,615
合 計	0	17,000	109,597	700	19,380	7,500	154,177

資料：大島支庁総務課

期間：平成18年 1 月～12月

被 害 金 額（単位：千円）										備 考 被害地域等
農 林 水産業 施設	公共土木 施設	その他の 公共施設	農 産 被害	林 産 被害	畜 産 被害	水 産 被害	商 工 被害	その他	計	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	瀬戸内町外 1 町
17, 000	70, 800	0	426	0	0	0	0	4, 500	92, 726	伊仙町外 5 市町
0	38, 797	0	0	0	0	0	0	0	38, 797	徳之島町外 2 町
0	0	700	18, 954	0	0	3, 000	0	0	22, 654	与論町外 2 町
17, 000	109, 597	700	19, 380	0	0	3, 000	0	4, 500	154, 177	

16－ 3 年次別台風・大雨等被害状況（数値は市町村の報告による）

資料：大島支庁総務課

期間：平成18年 1 月～12月

単位：千円

区 分 年 次	住 家 等	農林水産業 施設	公 共 土 木 施設	そ の 他 の 公 共 施 設	農 産 被 害	そ の 他	合 計
平成 7	3, 283 (540)	502, 370 (8, 000)	948, 760 (182, 300)	23, 160 (22, 560)	519	19, 954 (16, 792)	1, 498, 046 (230, 192)
8	104, 907	369, 769	1, 488, 780	11, 881	1, 038, 300	331, 750	3, 345, 387
9	118, 063	314, 240	3, 837, 093	156, 034	1, 535, 636	207, 904	6, 168, 970
10	8, 602	173, 350	1, 279, 300	300	148, 307	37, 300	1, 647, 159
11	35, 960	585, 677	944, 220	10, 145	449, 883	13, 580	2, 039, 465
12	325, 704	502, 897	1, 199, 701	39, 250	861, 311	41, 764	2, 970, 627
13	17, 158	13, 400	50, 500	5, 395	766, 708	12, 705	865, 866
14	476, 376	246, 234	313, 700	108, 825	958, 647	184, 938	2, 288, 720
15	58, 387	50, 426	306, 525	44, 757	815, 988	126, 567	1, 402, 650
16	—	395, 149	2, 070, 314	327, 493	1, 669, 073	312, 971	4, 775, 000
17	—	226, 395	915, 665	109, 980	127, 524	39, 612	1, 419, 176
18	—	17, 000	109, 597	700	19, 380	7, 500	154, 177

（注）平成 7 年（ ）は、喜界島沖地震被害額で内書き。

（注）「住家等」については、平成16年度以降、集計されていない。

2 消 防

(1) 火災発生状況

平成17年中の火災発生件数は96件で、前年に比べ27件減少しており、約4日に1件の割合で火災が発生したことになる。

市町村別では、名瀬市が20件（奄美群島全火災の20.8%）で最も多く、次いで、徳之島町13件、和泊町12件、喜界町9件、知名町8件、笠利町8件、瀬戸内町6件、与論町5件、伊仙町4件、宇検村、龍郷町、天城町が3件、大和村1件、住用村1件の順となっている。

人口（平成17年1月1日住民基本台帳による）1万人当たりの出火件数を表す出火率では、和泊町の16.0が最も高く、次いで宇検村の14.6、知名町の11.2、徳之島町の10.0、与論町の8.74の順となっている。

火災種別にみると、「建物」火災が46件（奄美群島全火災の48.0%）で最も多く前年に比べ3件の減少、「車両」火災が9件（同9.3%）で前年に比べ2件の減少、「林野」火災が0件で前年に比べ7件の減少、「船舶」火災が1件（同1.04%）で前年と同件、「その他」火災（田畑の野焼き等の火災）が40件（同41.6%）で前年に比べ15件の減少となっている。

火災による死者は5人で、前年と同件である。また、負傷者は9人で前年に比べ10人の減少となっている。

焼損棟数は85棟で前年に比べ5棟の減少、り災世帯数は45世帯で前年に比べ17世帯の減少、り災人員は103人で前年に比べ46人の減少となっている。

損害額は1億38,824千円で、前年に比べ1億61,180千円の減少で、火災1件当たり約1,446万円、1日当たり約380万円が灰になったことになる。

損害額2千万円以上の大きな火災は、名瀬市で1件発生している。

出火原因では、野焼き等をする際の「火入れ」が19件（全火災の19.7%）で最も多く、次いで「たき火」7件（同7.3%）、「たばこ」、「こんろ」、「放火」の6件（同6.3%）、「風呂かまど」5件（同5.2%）の順となっている。

(2) 消 防 現 勢

消防本部数、消防団数は前年と変わりはない。消防職員は228人で前年に比べ1人減少し、条例定員に対する充足率は、99.6%である。

また、消防吏員223人の平均年齢は41.8歳となっている。

消防団員は、1,522人で前年に比べ20人減少し、平均年齢は42.7歳で条例定員に対する充足率は94.3%となっている。消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ等の消防機械のうち、ポンプの充足率は、平成15年4月1日現在で消防本部、消防団ともに、97%となっている。

また、火災鎮圧のため必要不可欠な消防水利については、平成15年4月1日現在で充足率80%となっており、充足率の高いところは宇検村の97%で、最も低いところは和泊町の43%となっている。

消防団の県平均充足率は、消防ポンプが97%、消防水利は74%であり、県平均と比較しても、水準には達していると判断される。

16－ 4 市町村別の火災発生状況

資料：鹿児島県消防保安課
期間：平成17年 1 月～12 月

市町村名		出火件数					損害額(千円)					焼損棟数					り災世帯数				り災人員	死傷者		損害面積		1件当たりの損害額(千円)			
		計	建物	林野	車両	船舶その他	計	建物	林野	車両	船舶その他	爆発	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	全損	半損		小損	死者	負傷者	建物床面積(m ²)		林野(a)		
大島地区消防組合	名瀬市	20	13			7	48,226	46,291		1,920		10	5	27	9	2	8	8	15	5		10	39		4	526		2,411	
	大和村	1	1				2,580	2,580						1	1				1	1			1	1		51		2,580	
	宇検村	3	1			1	7,966	966			7,000			2	2											86		2,655	
	瀬戸内町	6	4		1	1	3,870	2,770		1,084		16		9	3			6	3	1		2	4	1		56		645	
	住用村	1	1				60	60						2	1		1		1			1	1			5		60	
	龍郷町	3	2		1		14,370	14,340		30				6	4		1	1	4	2		2	9	2		278		4,790	
	笠利町	8	3		2	3	24,852	24,227		625				10	9		1		2	2			6		1	420		3,106	
	喜界町	9	3		1	5	2,318	2,264		10		44		7	3		3	1	3			3	8		2	80		257	
	計	51	28		5	1	17	104,242	93,498		3,669	7,000	70	5	64	32	2	14	16	29	11	18	68	4	7	1,502		2,043	
徳之島	徳之島町	13	9		3		18,900	18,799		100		1		11	2	2	4	3	9	3	1	5	18	1		298		1,453	
	天城町	3	1			2	7,270	7,228				42		2	1		1		1	1			3			79		2,423	
	伊仙町	4	2		1	1	3,427	1,782		1,500		145		2	1		1		2	1		1	3			123		856	
	計	20	12		4	4	29,597	27,809		1,600		188		15	4	2	6	3	12	5	1	6	24	1		500		1,479	
沖与論	和泊町	12	2			10	51	47				4		2			1	1	2			2	7		1			4.2	
	知名町	8	1			7	7	7						1			1		1			1	2					0.8	
	与論町	5	3			2	4,927	4,594		333				3	2			1	1	1		2		1	114		985		
	計	25	6			19	4,985	4,648		333		4		6	2		2	2	4	1		3	11		2	114		199	
	合計	96	46		9	1	40	138,824	125,955		5,602	7,000	262	5	85	38	4	22	21	45	17	1	27	103	5	9	2,116		1,446
	平成16年	123	49	7	11	1	55	340,240	334,255	30	4,616	107	1,232		90	49	5	21	15	62	37	4	21	149	5	19	4,466	38	2,766
比較	△27	△3	△7	△2	0	△15	△201,416	△208,300	△30	986	6,893	△970	5	△5	△11	△1	1	6	△17	△20	△3	6	△46	0	△10	△2,350	△38	△1,320	

16－ 5 月別火災発生状況

資料：鹿児島県消防保安課
期間：平成17年 1 月～12 月

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
件 数	5	5	21	12	2	3	7	5	8	11	9	8	96
前年件数	10	17	15	13	7	3	7	13	8	14	9	7	123
増 減 数	△5	△12	6	△1	△5	0	0	△8	0	△3	0	1	△27

16－ 6 原因別火災発生状況

資料：鹿児島県消防保安課
期間：平成17年 1 月～12 月

順 位	①	②	③	③	③	④	⑤	⑤	⑥	⑥	⑥																	
	火入れ	たき火	たばこ	こんろ	放火	風呂かまど	火遊び	ストーブ	電灯電話等の配線	電気機器	交通機関内配線	排気管	配線器具	溶接機・溶断機	灯火	放火の疑い	電気装置	ボイラー	内燃機関	マッチ・ライター	かまど	煙突・煙道	その他	不明・調査中				
件 数	19	7	6	6	6	5	3	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	17	10			96	
前年件数	22	13	14	6	2	2	4	1	3	2	1	4	2	3	2	7				3	2	1	16	13			123	
前年順位	①	③	②	⑤	⑪	⑪	⑥		⑧	⑪		⑥	⑪	⑧	⑪	④				⑧	⑪							
増 減 数	△3	△6	△8	0	4	3	△1	2	△1	0	1	△3	△1	△2	△1	△6	1	1	1	△3	△2	△1	1	△3			△27	

16－ 7 大火災発生状況（損害額2,000万円以上）

資料：鹿児島県消防保安課
期間：平成17年 1 月～12 月

出火月日	出 火 刻	市 村 町 名	火 元 の 途	原 因	焼 損 棟 数	り 災 世 帯	り 災 人 員	死 者	負 傷 者	焼 損 面 積 (㎡)	損 害 額 (千円)

16－8 消 防 現 勢

資料：鹿児島県消防保安課
期日：平成18年4月1日

区 分 市町村名	消 防 団 (消防本部)		消 防 団(職)員			消 防 ポ ン プ 等								消 防 水 利			
	団 ・ 本 部 数	分 団 数	条 例 定 数	現 員	平 均 年 齢	自消 防 動 車	ボ水 ンそ プう 自付 動消 車防	付は 消 防し 自 動 車	小 型 動 力 ポ ン プ		救 急 自 動 車	そ の 他	ポ ン プ 充 足 率	消 火 栓	防 火 水 う	そ の 他	充 足 率
									付小 型積 動力 載ポン 車	い車 両に ない積 載も のて							
奄 美 市		19	452	413	44.8	7	2	-	40	4	-	1	88	408	140	28	90
大 和 村		5	52	50	37.7	1	-	-	9	-	-	-	100	-	28	8	92
宇 検 村		7	82	81	42.6	1	-	-	7	-	-	-	100	6	25	2	97
瀬 戸 内 町		4	130	123	45.4	1	1	-	12	33	-	-	100	86	63	4	70
龍 郷 町		14	146	140	44.9	2	3	-	3	6	-	-	100	18	67	3	83
喜 界 町		10	130	120	40.1	2	2	-	6	2	-	2	91	-	120	4	63
大島地区消防組合	1	-	143	142	41.1	3	5	2	-	-	13	13	91	-	-	-	-
徳 之 島 町		11	161	154	42.6	1	4	-	12	2	-	1	82	30	92	22	77
天 城 町		3	80	75	42.7	1	1	-	1	2	-	1	100	58	58	32	85
伊 仙 町		8	74	59	41.8	1	2	-	-	2	-	1	125	32	55	-	92
徳之島地区消防組合	1	-	49	49	43.2	-	3	-	-	-	3	1	100	-	-	-	-
和 泊 町		6	100	100	39.5	1	5	-	1	-	-	2	88	-	82	-	43
知 名 町		13	130	129	38.7	2	7	-	4	-	-	-	107	-	129	-	87
与 論 町		3	72	69	39.3	1	3	-	1	1	-	1	79	64	76	34	92
沖永良部与論地区 広 域 事 務 組 合	1	-	37	37	42.6	-	2	-	-	-	4	2	100	-	-	-	-
	(本部)	-	229	228	42.3	3	10	2	-	-	20	16	97	-	-	-	-
計	団12	103	1,609	1,513	41.7	21	30	-	96	52	-	9	97	702	935	137	80

注1 ポンプ充足率及び消防水利充足率は、平成15年4月1日現在（3年に1回調査）である。

注2 消防職員の平均年齢は消防吏員の平均である。

3 警 察

(1) 交通事故発生状況

平成18年の交通事故の総発生件数（人身）は、11,451件で前年に比べ839件減少した。

交通事故による死者は110人で、前年に比べ7人増加、傷者については、13,952人で1,041人減少した。

件数を市町村別にみると、奄美群島で件数の最も多いのは奄美市の229件（全体の56.0%）で、次いで徳之島町37件（同9.0%）となっている。また、島別に件数の割合をみると、大島本島69.2%、喜界島2.9%、徳之島16.9%、沖永良部島8.3%、与論島2.7%となっている。

死者は、奄美市、瀬戸内町で各4人の8人、大和村、龍郷町、徳之島町で各1人の3人となっており、前年からすると大幅に増加している。

人口1万人当たりの死傷者数は、龍郷町が63人、奄美市が53人、徳之島町が42人となっており、最も少ないのは、喜界町の17人となっている。

(2) 刑法犯発生状況

平成18年の刑法犯の総発生件数は、748件で前年に比べ44件の減少となっている。

市町村別にみると件数が最も多いのが、奄美市の382件（全体の51.1%）で前年と比べると34件の減少、次いで徳之島町の80件（同11%）で前年に比べ45件減少した。

罪種別にみると、窃盗犯が565件（全体の75.5%）と犯罪の大部分を占めている。検挙件数は306件となっている。

16－ 9 市町村別交通事故発生状況

資料：県警察本部交通企画課
期間：平成18年1月～12月

区 分 市町村名	人 口	件 数	死 者	傷 者	前 年 比 増 減			車 両 台 数			人口1万人 当たりの 死傷者数
					件 数 (人身)	死 者	傷 者	原付・自二 特殊農耕	自 動 車	合 計	
総 数	126,483	409	11	482	-43	7	-50	26,092	80,469	106,561	39.0
大 島 本 島	70,462	283	10	328	-26	7	-41	10,705	40,327	51,032	48.0
奄 美 市	49,617	229	4	261	-26	2	-49	8,222	27,922	36,144	53.4
大 和 村	2,013	6	1	6	2		3	127	1,224	1,351	34.8
宇 検 村	2,048	4		7	1		4	146	1,455	1,601	34.2
瀬 戸 内 町	10,782	20	4	17	-2	4	-6	1,604	5,771	7,375	19.5
龍 郷 町	6,002	24	1	37	-1	1	7	606	3,955	4,561	63.3
喜 界 島	8,572	12		15	-6		-6	1,854	6,055	7,909	17.5
喜 界 町	8,572	12		15	-6		-6	1,854	6,055	7,909	17.5
徳 之 島	27,167	69	1	91	-11	1	-4	5,626	20,264	25,890	33.9
徳之島町	12,892	37	1	54	-10	1	2	2,789	8,718	11,507	42.7
天 城 町	7,020	12		14	-6		-8	1,525	5,582	7,107	19.9
伊 仙 町	7,255	20		23	5		2	1,312	5,964	7,276	31.7
沖永良部島	14,551	34		37	1		1	5,540	10,497	16,037	25.4
和 泊 町	7,436	15		17	-3		-3	2,850	5,411	8,261	22.9
知 名 町	7,115	19		20	4		4	2,690	5,086	7,776	28.1
与 論 島	5,731	11		11	-1	-1		2,367	3,326	5,693	19.2
与 論 町	5,731	11		11	-1	-1		2,367	3,326	5,693	19.2

注：1 人口は平成18年12月21日現在
2 車両台数は平成18年3月末現在

16－10 市町村別刑法犯発生状況

資料：大島郡内各警察署
期間：平成18年1月～12月

市町村別	罪種別	凶 悪 犯	粗 暴 犯	窃 盗 犯	知 能 犯	そ の 他 刑 法 犯	合 計	平 成 1 7 年 の 状 況
奄 美 市	認 知	2	19	312	15	34	382	348
	検 挙	2	18	88	8	19	135	265
大 和 村	認 知	0	0	10	0	0	10	8
	検 挙	0	0	6	0	0	6	5
宇 検 村	認 知	0	0	2	0	6	8	5
	検 挙	0	0	0	0	0	0	1
瀬 戸 内 町	認 知	2	5	26	5	6	44	65
	検 挙	2	5	6	0	3	16	32
龍 郷 町	認 知	0	1	33	0	3	37	37
	検 挙	0	1	10	0	2	13	12
喜 界 町	認 知	0	3	27	1	5	36	29
	検 挙	0	3	15	1	3	22	9
徳 之 島 町	認 知	1	8	54	4	13	80	125
	検 挙	1	9	15	3	4	32	45
天 城 町	認 知	0	3	24	3	5	35	40
	検 挙	0	2	4	0	3	9	9
伊 仙 町	認 知	0	7	20	1	3	31	29
	検 挙	0	7	13	1	1	22	8
和 泊 町	認 知	0	4	22	2	3	31	39
	検 挙	0	4	14	0	1	19	14
知 名 町	認 知	0	8	19	1	5	33	38
	検 挙	0	8	9	0	1	18	24
与 論 町	認 知	1	1	16	0	3	21	29
	検 挙	1	1	11	0	1	14	13
総 計	認 知	6	59	565	32	86	748	792
	検 挙	6	58	191	13	38	306	437

※数値については、平成19年1月31日現在暫定値。

各罪種区分の定義

凶 悪 犯……殺人，強盗，強姦，放火など

粗 暴 犯……暴行，傷害，脅迫，恐喝など

窃 盗 犯……ドロボウのこと

知 能 犯……詐欺，横領，偽造など

その他刑法犯……上記4区分以外の刑法犯

4 海上保安

名瀬海上保安部管内において、平成18年に救助を必要とする海難に遭った船舶は25隻であり前年に比べ18隻増加した。

種類別に見ると、転覆7隻、乗場・機関故障が各5隻、衝突・推進器障害が各3隻、運航阻害・火災が各1隻となっている。原因別では、見張り不十分・船位不確認、気象海気不注意等人的ミスによるものが、その大半を占めている。

なお、自然災害による係留中の船舶転覆が6隻と増加した。一方、平成18年に発生した人身事故者数については26名であり前年より6名減少したが、磯遊び中の海浜事故の増加が見受けられた。

これら海難事故が発生した場合には、早急な救助活動を実施する必要があるが、南北約220キロに及ぶ地域に多くの離島をかかえた名瀬海上保安部管内においては、地元海事関係者等による、ボランティア精神に基づく民間救助団体の組織化及びその協力が不可欠である。これらの状況を踏まえて、「鹿兒島県水難救済会与論救難所」が、平成7年1月31日与論町に設置されたのを契機として、平成14年7月1日までに奄美群島内の全市町村に救難所が設置され、救助活動を実施している。

さらに、漁業組合やプレジャーボート関係者等を母体として組織された各地区小型船交通安全協議会が、海上における小型船等による海難事故の未然防止を図るため活動を実施している。

また、名瀬海上保安部航行救助センターでは、これまでの航路標識業務に加え、平成15年2月1日から沿岸域情報提供システムを運用している。本システムは、奄美大島の沿岸海域を航行する船舶・漁船やマリナープレジャーを楽しむ人々が安全に活動できるように、各地の灯台で観測された気象情報を含む海の安全に関する情報をインターネット・ホームページ（携帯電話を含む）やテレホンサービスによりリアルタイムに提供するもので、海難の未然防止に役立っている。なお、平成18年4月から笠利崎灯台にライブカメラが設置され、ホームページ上で利用出来るようになった。

同センターが管理する航路標識の現状は、管内で最初に設置された曾津高崎灯台（明治29年11月初点）を初めとする沿岸灯台18基、その他の防波堤灯台・導灯・指向灯・照射灯21基、大山崎無線方位信号所（レーマーク）の合計40基となっている。

これら航路標識は、奄美群島沿岸を航行する船舶や各島の港湾を利用する船舶の安全確保に寄与している。

16-11 海難事故の発生状況

（7）要救助船舶隻数等の推移

項目 \ 年	平成16年	平成17年	平成18年
遭 難 者 数（人）	16	15	25
死 亡 ・ 行 方 不 明 者 数（人）	0	1	1

（注）死亡、行方不明者数は、遭難者数の内数である。

（イ）船舶海難の種類別内訳

（隻）

項 目	衝突	乗 揚	転 覆	火 災	浸 水	機 関 故 障	推進器 障 害	運航 阻害	行 方 不 明	その 他	合 計
平 成 1 6 年	1	5	2	1	3	0	2	0	0	2	16
平 成 1 7 年	3	2	2	1	1	3	1	1	0	1	15
平 成 1 8 年	3	5	7	1	0	5	3	1	0	0	25

16-12 海上における人身事故

(7) 人身事故者数の推移

(人)

項目	年	平成16年	平成17年	平成18年
事故者数		32	32	26
死亡・行方不明者数		19	19	17

(注) 死亡・行方不明者数は、事故者数の内数。

(イ) 人身事故の種類別内訳

(人)

	船舶乗船中の人身事故					海浜事故				合計
	海中転落	負傷	病気	中毒	その他	遊泳中	磯遊び中	磯釣中	その他	
平成16年	0	2	5	0	0	2	2	4	17	32
平成17年	2	3	2	0	2	1	1	3	19	33
平成18年	3	1	2	0	0	2	4	1	13	26

16-13 機動力（巡視船艇）

船名	所属	総トン数	航行区域	就役年月
かいもん	名瀬海上保安部	220	近海	平成16年4月
いそなみ	〃	149	近海	昭和56年3月
はるかぜ	〃	26	沿海	平成8年11月
ほしかぜ	古仁屋海上保安署	26	沿海	平成8年11月
ばるさあ	〃	4.7	沿海	平成8月3月

16-14 民間救助組織

組織の区分	組織の名称	代表者	住所	救助勢力
鹿児島県水難救済会	与論救難所	南 政 吾	鹿児島県大島郡与論町茶花32-1	人員 79名
鹿児島県水難救済会	和泊救難所	泉 貞 吉	鹿児島県大島郡和泊町和泊10	人員 36名
鹿児島県水難救済会	知名救難所	平 安 正 盛	鹿児島県大島郡知名町知名307	人員 155名
鹿児島県水難救済会	喜界救難所	加 藤 啓 雄	鹿児島県大島郡喜界町湾1746番地	人員 97名
鹿児島県水難救済会	天城救難所	大 久 幸 助	鹿児島県大島郡天城町平土野2691-1	人員 64名
鹿児島県水難救済会	伊仙救難所	大 久 保 明	鹿児島県大島郡伊仙町伊仙1842	人員 112名
鹿児島県水難救済会	龍郷救難所	川 畑 宏 友	鹿児島県大島郡龍郷町浦110	人員 320名
鹿児島県水難救済会	住用救難所	平 田 隆 義	鹿児島県奄美市住用町大字西仲間111	人員 150名
鹿児島県水難救済会	笠利救難所	平 田 隆 義	鹿児島県奄美市笠利町大字中金久141	人員 170名
鹿児島県水難救済会	宇検救難所	元 山 三 郎	鹿児島県大島郡宇検村湯湾915	人員 245名
鹿児島県水難救済会	大和救難所	永 田 武 光	鹿児島県大島郡大和村大和浜100	人員 190名
鹿児島県水難救済会	名瀬市救難所	平 田 隆 義	鹿児島県奄美市名瀬幸町25-8	人員 335名
鹿児島県水難救済会	瀬戸内救難所	義 永 秀 親	鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津23	人員 49名
鹿児島県水難救済会	徳之島町救難所	勝 重 藏	鹿児島県大島郡徳之島町亀津7203	人員 212名

16－15 船舶交通安全協議会

組 織 の 名 称	会 員 数	設 立 年 月 日	主 な 活 動 海 域
奄 美 地 区 小 型 船 交 通 安 全 協 議 会	203名	昭和49年12. 17	奄美大島（奄美市名瀬）
瀬 戸 内 町 小 型 船 舶 交 通 安 全 協 議 会	66名	昭和57年10. 6	奄美大島（瀬戸内町）
喜 界 島 地 区 小 型 船 交 通 安 全 協 議 会	54名	平成 5年 9. 27	喜界島周辺海域
奄 美 群 島 瀬 渡 船 安 全 対 策 協 議 会	44名	昭和60年 7. 29	奄美大島（奄美市名瀬）
与 論 島 地 区 小 型 船 交 通 安 全 協 議 会	50名	平成 5年 9. 27	与論島周辺海域
沖永良部島・和泊地区小型船交通安全協議会	40名	昭和60年 7. 29	沖永良部島周辺海域

16－16 名瀬海上保安部が管理する航路標識の市町村別設置状況

期日：平成18年12月31日
単位：基

市町村別	区 分	灯 台	導 灯	指 向 灯	照 射 灯	無 線 方 位 所	計
（ 奄 美 大 島 ）		16	1		1	1	19
奄 美 市		8	1				9
大 和 村		1				1	2
宇 検 村							
瀬 戸 内 町		6					6
龍 郷 町		1			1		2
（ 喜 界 島 ）		4	1				5
喜 界 町		4	1				5
（ 徳 之 島 ）		5	1		1		7
徳 之 島 町		2	1		1		4
天 城 町		2					2
伊 仙 町		1					1
（ 沖 永 良 部 島 ）		2	2	1			5
和 泊 町		1	2				3
知 名 町		1		1			2
（ 与 論 島 ）		2	1	1			4
与 論 町		2	1	1			4
合 計		29	6	2	2	1	40

（注） 奄美大島には、加計呂麻島、請島、与路島を含む。

16－17 奄美群島地区スキューバダイビング安全対策協議会

平成元年4月設立 会長 窪島 修

支 部 名	支 部 長 名	事 業 所 名	加入団体数
奄 美 北 部 支 部	窪 島 修	あまみらびっと	24
奄 美 南 部 支 部	上 河 勝 法	ととろまりん	18
与 論 支 部	福 地 祐 文	マリンライフ	9